



青山御流

法苑珠林

後篇

三

多 9
1412
9



門子刻
1412
卷 3

藏書行

藏書

花山院前内大臣家厚公

平也
卷之四

家厚

藏書

藏書

松平流藏書

藏書

賢木



畫竹頭從五位左近衛將監藤原光文

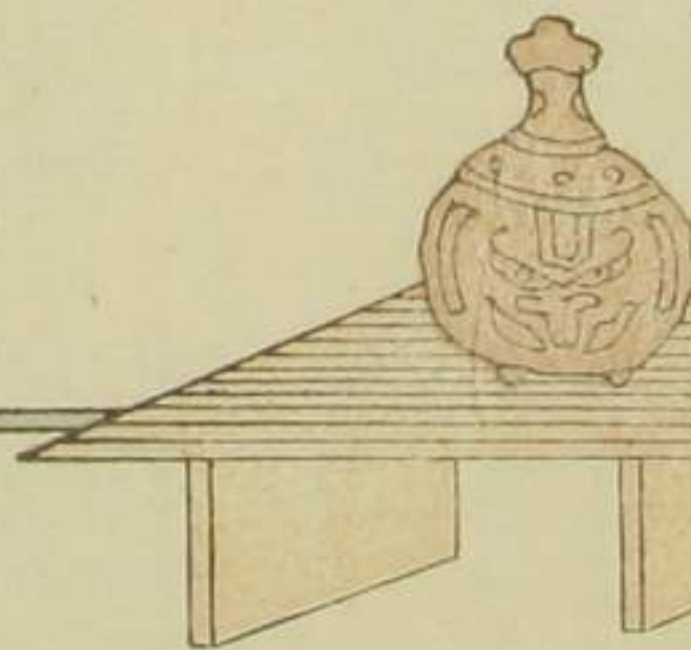


權中納言基茂卿

希賢君

大納言基理卿

賢木景遠表之五平
垂之四手然匹千代
母榮由久美智智乎
禮之伎 基理



豊前國宇佐宮神寶神代古鈴并戸張
外圍 嵯峨天皇御納物 平胡錄
熊野新宮神寶 模寫
峯秀謹寫

右近衛少將基萬朝臣

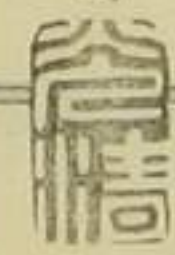
布直君



鶯宿梅

山茶 二花

畫所預正五位下土佐守藤原光清



Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in vertical columns within a decorative frame.

菊きく 神遊しんゆう 九種くしゅ



希春君

從六位上伊勢清原奉季畫



菜な 萸ゆ 囊ふくろ



公事報源後成恩寺園白殿下 重陽宴条云 九月九日イテ日ヲイハレハ
菊花の宴ハイハレシ中ニ御帳の左右ニ菜萸の囊をウケ
御前ニ菜萸を置キテ菜萸の房を以テ顔イキハシメハ
氣をナシメシメテハ本々あり
以テ御報源之古昔以來重陽之日菜萸并菊必用之飲漢家其證亦殊多矣
白下大判筆善明齋主在衛門大尉中原朝臣章武謹認

點
無
造
化
新
區
全

陸文輝印

渾
入
孝
極
中
基
祥
題

陸文輝印

古事記の神代乃御卷乃天香山之五百津真賢木矣根許士爾許士
テ而於上枝取著八尺勾瓊之五百津之御須麻流之玉於中枝取敷八尺鏡
レモツエニシラニキテアラフニキテヨトリ於下枝取白丹寸手青丹寸手而此種々物者天布刀玉命布刀御幣登
トリモキテ取持而とあやを始とて今も神サカキの綿垂附イフを玉串といひて皇神サカキより
日奉りたり、亦と手向串乃義コノ萬葉集に五十串立神酒座奉神
又レノ主部之とあれ歌乃五十串ハイクレ是も玉串なり、神酒瓶子の口に今も
イクレ青葉をさす古例有 此卷の
七ノ免サキモリ故 園乃卿の八卦乃瓶挿サキモリハ足ハツをかん同集の上総國
の防人乃歌乃庭中乃阿須波乃神乃小葉サキモリ一吾ハツを年降りまると
あは今乃世家ごと月乃始小ハツ櫛とて入ハツ小櫛ハ一籠ハツの御奉る
花也ともしは是也、花をりて皇神を祭は書紀乃神代乃御卷乃伊勢
冊尊乃鏡乃凡紀伊國熊野此有馬村の土俗サトビトの此御魂登乃花時亦以花祭
神祇令孟夏三枝登義解小幸川社登也以三枝華飾酒樽登故曰とありて始なり也、
三枝也とあり三枝ハ古事記山由理草之名とありて今乃百合ナリ西宮

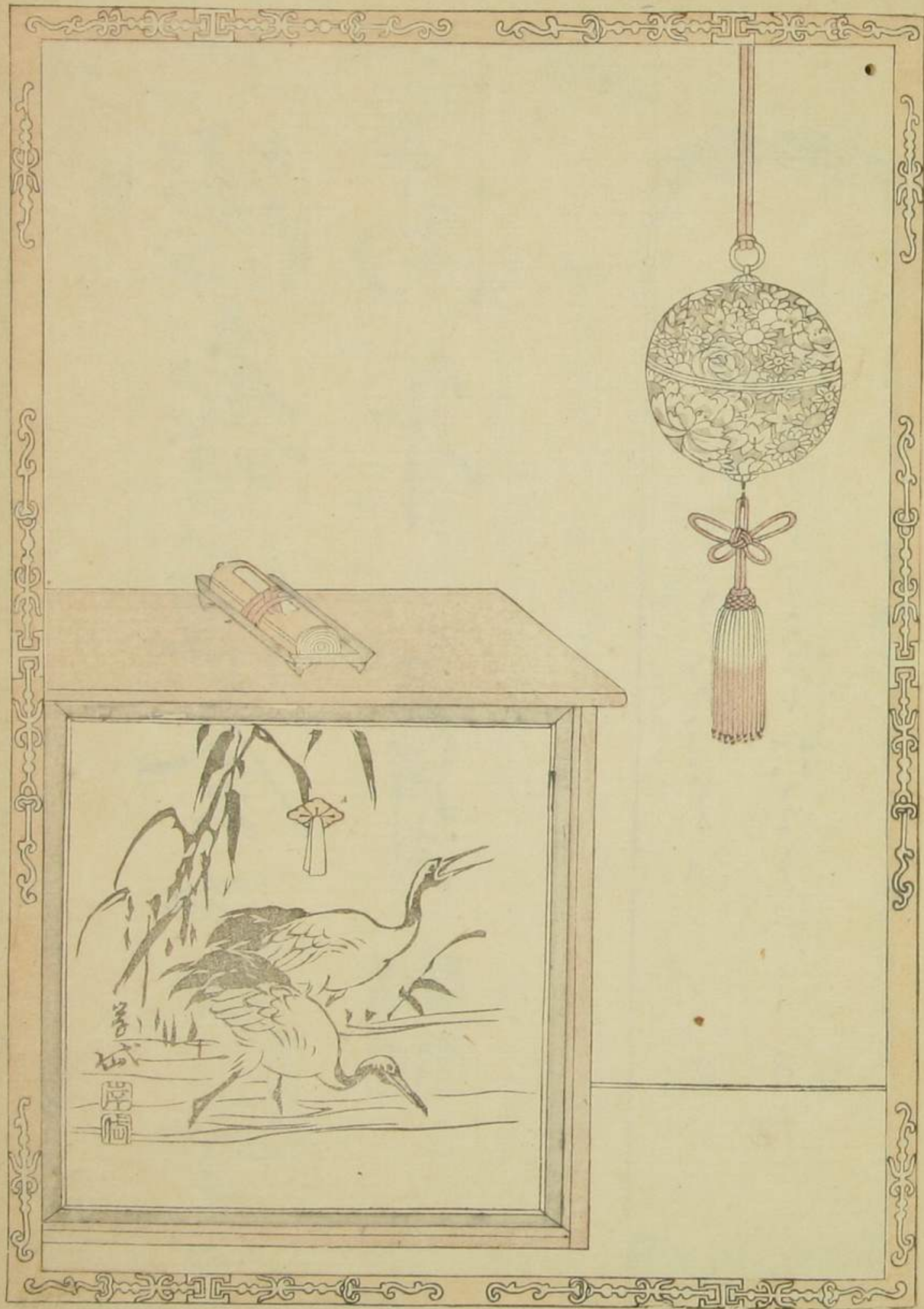
記乃九月九日以菊瓶立御帳前ウレエとて今乃 園の君乃さ玉い
寫畫乃は名是事なり、されと神も君と事人も常々愛乃花乃を木花之
佐久夜毘賣乃御名乃さくやハ開光映の意なり、之と此林の御容儀
をもいひやとて、これ乃書ハ本草のなをもとあはく、瓶挿乃これ
す、画卷かれと正木のわぐ、末くけて亦く花の道はたつことなり、是
は、サナ神の御心もわかひ人もめで、かやらば幸福あり
ヨソとて、おわお伊也

行乃花のす、をう、とて百万とえ、其の、
嘉永の四とちり、乃八月の十日あり、五日か、り、

正五位下陸奥守大中臣富嗣長

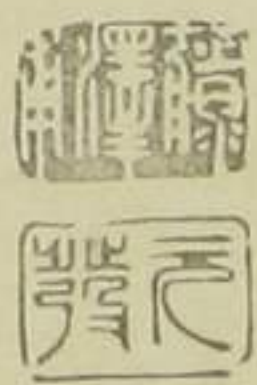
亞仙亭佳月鉾書





德壽維金君子
萬年

藤澤甫



此の徳もあはれなるひとりの
とさうりいひゆるしむるはか
先和

一更ぬ一竹と老母を慕はし
よみよみとれくさるるは
んにお二種は海気の中より
はさしはさしとあひみ
手もはあはれ天地の
をさあふあふとるる地
まはるるはあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

土磨

喜留園永作
後

梭隱島款

御家御花務
壽菜園水谷有雅





綵
 菊
 神
 十
 器
 龍
 文
 堂
 鑄



子秋佳節
 插名花
 天歛如
 御袍黃
 梭隱島款

御家御花務
 壽菜園水谷有雅

中島素章寫



瓶花之有式者人以畫家寫生
折枝喻之其意態方有天趣為
得其堂齋異供瓶尊殊製而於
稱其寬窄小大猶畫家隨屏
障卷軸牋素材質而於稱其
長短縱橫求其郊坰經落交
竹臨漪之趣或論其禁曆加品

爵種之寵光其賞亦同但依
其天然枝葉与假其筆墨丹
粉有以異耳其依天然者要
不失其露折日笑嬌繞之態
出其低者要爭呈其筆墨
丹粉寫照之妙其真未必可
輕其低其低未必可讓其

真至顧其意態有天趣則一
也但依天然者雖其伎伎至
之令人駭絕者不過頃刻之
寄興而已不可惜哉是故
製此圖式可以播之四方可以
傳之永年猶奕棋之有譜
令覽者可察其風尚乃所

以今其徒易著力也又博
索文士品題及偶筆
弄亦律云尔

王子之暢月搥琴人題



燕子花 うきつむぎ
三十五



總御會頭
錦章亭逸雅
通稱 水谷主計藤原有正

千種正三位有切卿

長き
くろの
ささ
ハ
名切

活花手引種後編卷之三
一

活花手引種後編卷之三
一

蓮
十二花一房



鳩峯亭子由
通稱 別墅官治藤原常

〇十五

正家出志
櫻西路

昔此為天抑也
是人現
其玉堂
其風清
神
中道外
直徑能
淺
其
人
以
治
之
觀
治
之
新
其
神
之
蓮

其
神
之
蓮

正家出志

櫻西路

〇活花手引種 後編 卷之三

牡丹 三花



淡海國八幡
照旭亭紫窓
通稱野間甚三郎源義胤

まが幸しは守るも香もはさ
はくらの後の花をよの光大細

牽牛子



采原齋弘雅

通稱 河村實賢

盆山


打雜浪

東雲茶巖

通稱 土岐善右衛門良英



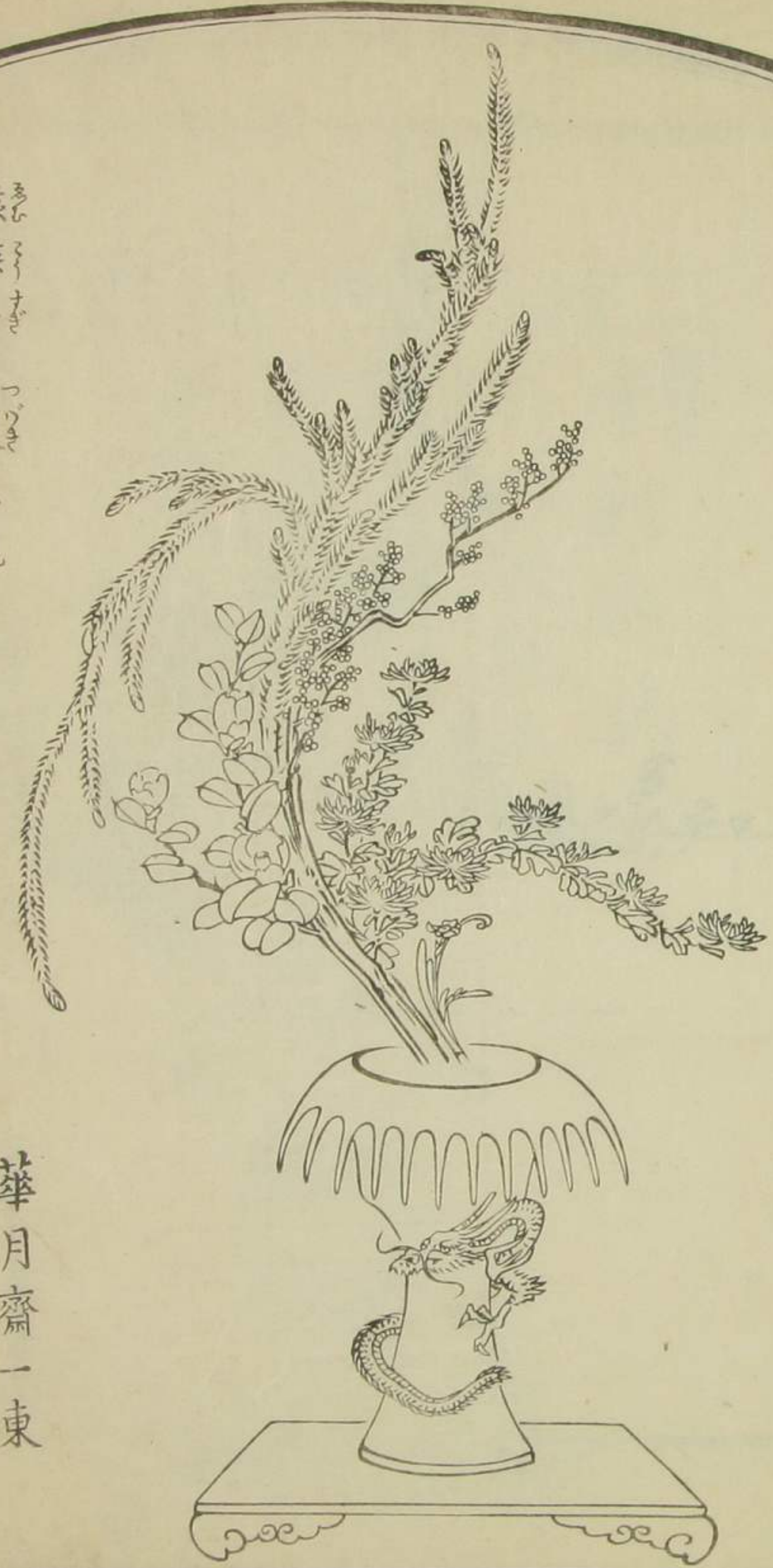
為恭


 以者評名盡風流拈
 筆欲題心自羞身似
 書中乾蝴蝶虛名
 後向紙間留

杉宇學子人題



器山田無雙鑄

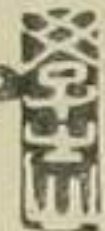


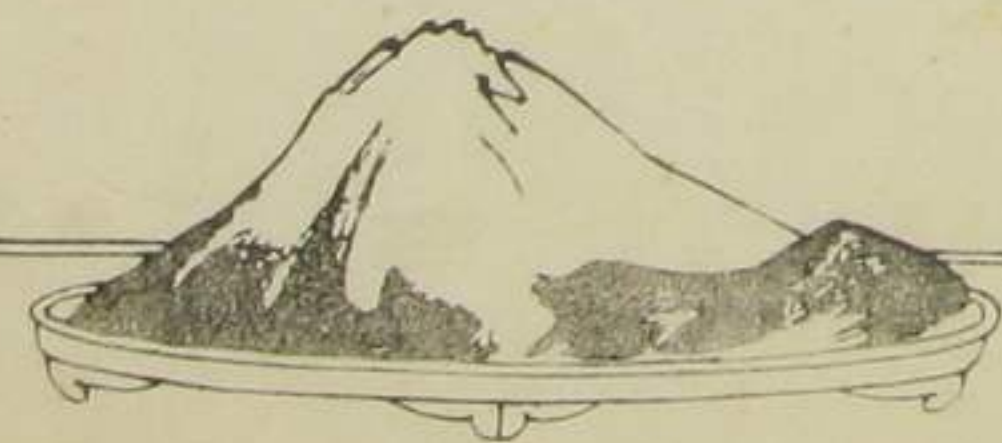
猿猴杉
 山茶 赤三花
 白梅 茂登木
 菊 上輪
 水仙 二卒

〇 活花手引種 後編 卷之三

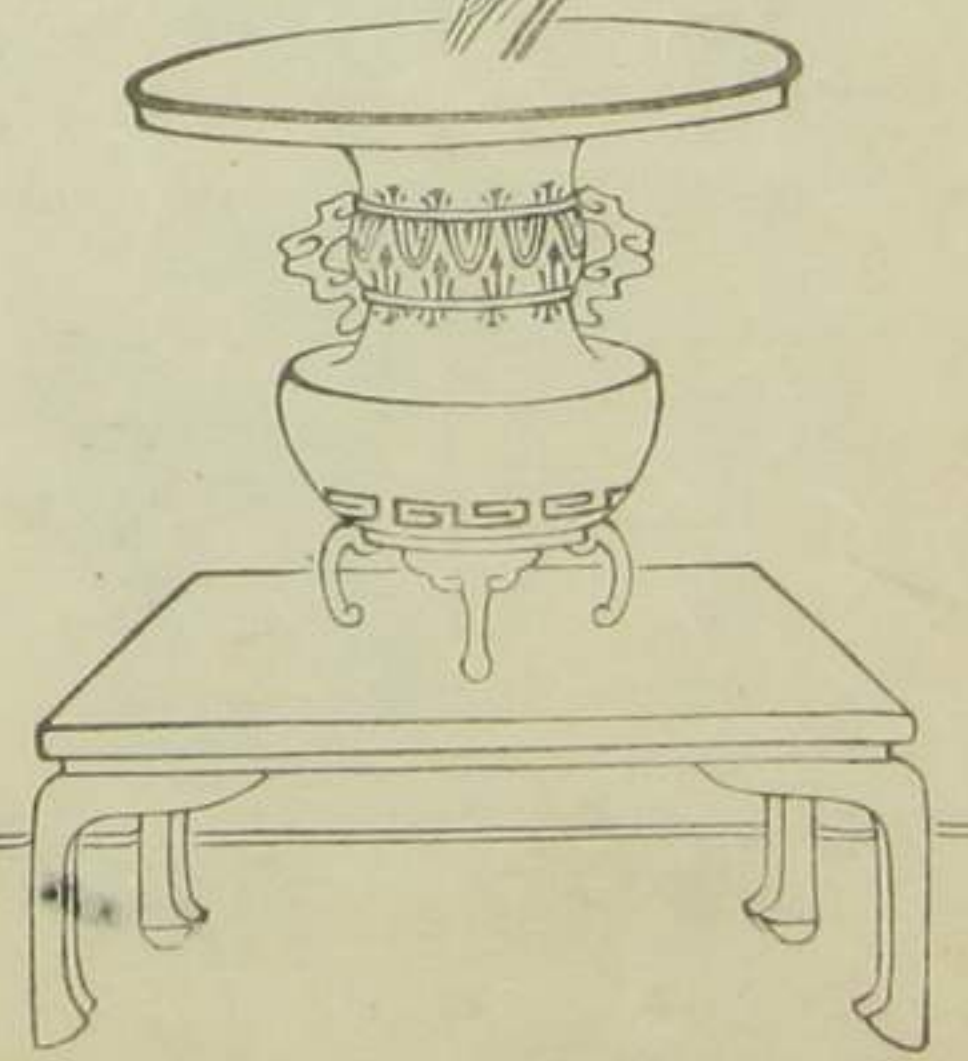
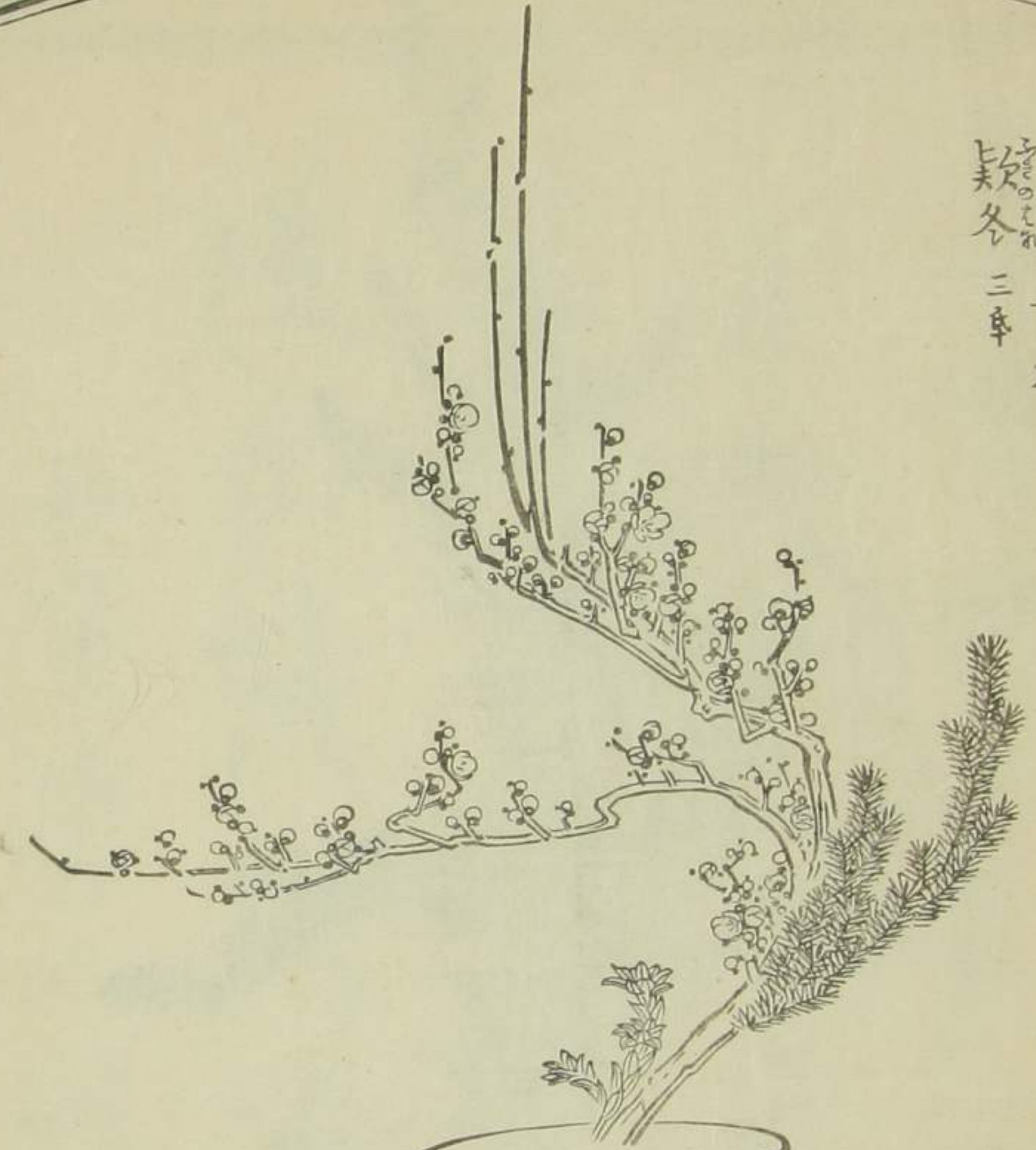
華月齋一東
 通稱 貴久智源賀時

伏原正二位宣明卿


 雲彩冰姿
 麗人間孰不
 憚將詩漫
 莫汙個斯真
 女僕梅
 清宣明卿



梅 うめ
 五 ご
 載 ざい
 松 しょう
 冬 ふゆ
 三 さん
 車 くるま



御家執司
 巫柳亭綠雅
 通稱 秋中治部藤原由祿

水仙 二十一

竹器鉢 垂水三重



大和國郡山

錦松齋秀雅

通稱

與西長左衛門

三重筒孔挿枝安金盞銀土臺
宥態宛る是貴法傳秘訣凌
波仙子世交欵 貞葺



一葉 十一



淡海國大津

湘碧亭篩月

通稱

大塚嘉右衛門

朱のふしやうり

しるし草子

宗のふしやうり

しるし草子

美濃



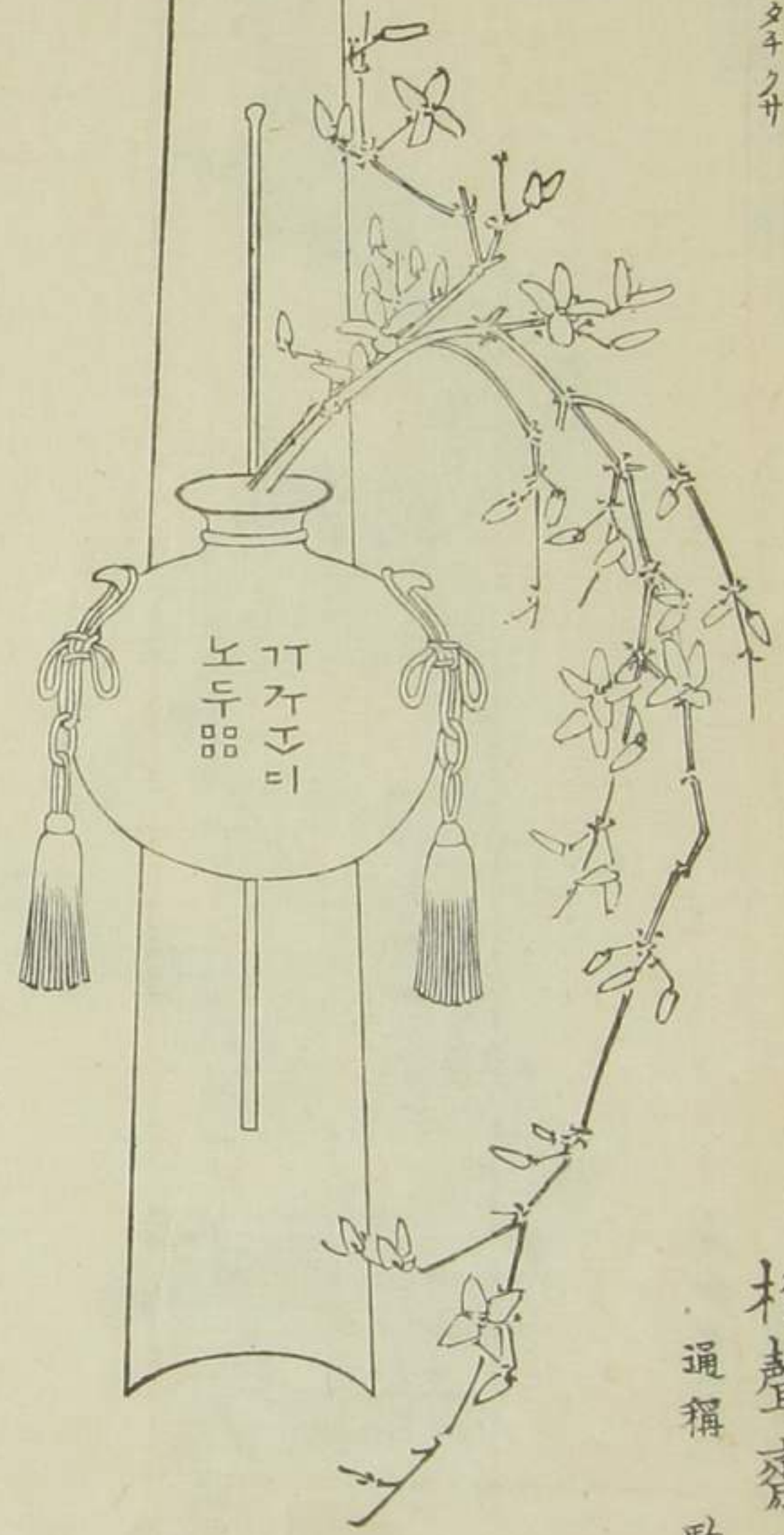
赤花
十一種
芍薬

皇代御會頭
 高知藩通稱
 近藤新左衛門
 忠亮

土佐國御會頭
 衆花亭養雅
 高知藩通稱
 近藤新左衛門
 正五

連翹
イタナクサ

器曲玉壺



大和國郡山

松聲齋幽雅

通稱 駒井長九郎

子代
 高知藩通稱
 近藤新左衛門
 忠亮

雪白英眉煉目精
 潤演強記為茶
 生莫言三尺釣絲
 短甚出於湯子城

太公望

章夫

副車一轂鄉言執神教
 初山東劉頂軍
 奇策誰知錄冬日
 猶歲精鐵百鍊分

浪留侯

神系

妙莫奇深神念
 能披孤至錫右
 傳勿立沈正三
 分斂力節系書
 傳手載名

清若亮

石月



芭蕉 三年九葉

當流之古傳
 抽芭蕉必用賢聖
 圖屏今姑請諸君之詩以代之

大和國郡山

蓬松亭翠雅

通稱

森村平七橋光寬

清溪電轉共雲峰
 夢裏猶驚翠
 瑞空五嶺莫愁千嶂外
 九華令
 在一壺中
 天汝水落層之見五
 女窗明處之通念我汝汝太孤
 絕百金歸買碧玲瓏

錄東坡之詩

善隱吾人大亦韶



仙人乃志めり侍此
 そこそあら〜いそ
 浮と〜我まむ
 な〜ありあ

秀雄

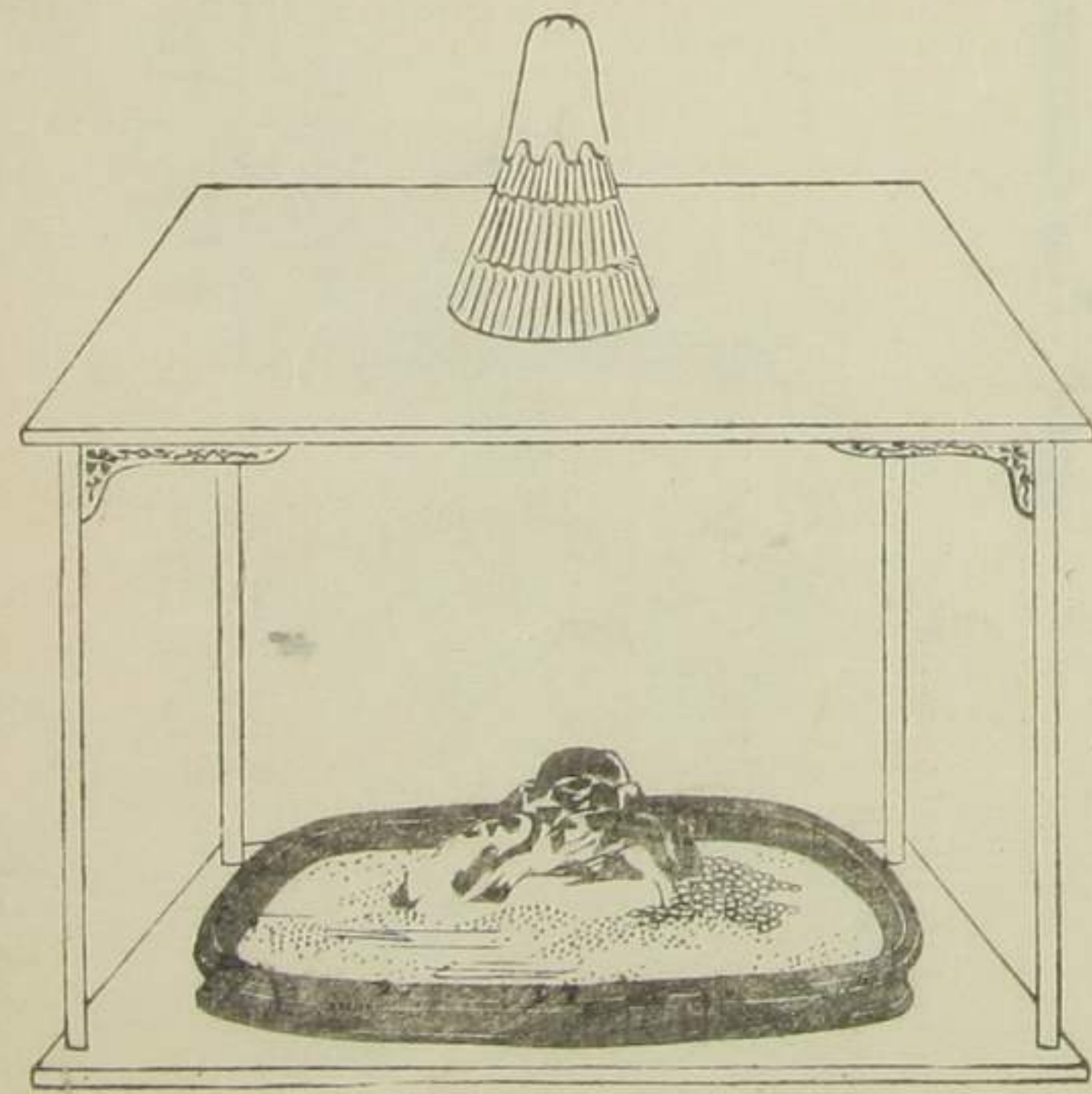
主名 風早實種卿御銘

三芳野

い〜ほもむ〜
 乃〜は〜
 乃〜は〜
 乃〜は〜

資養

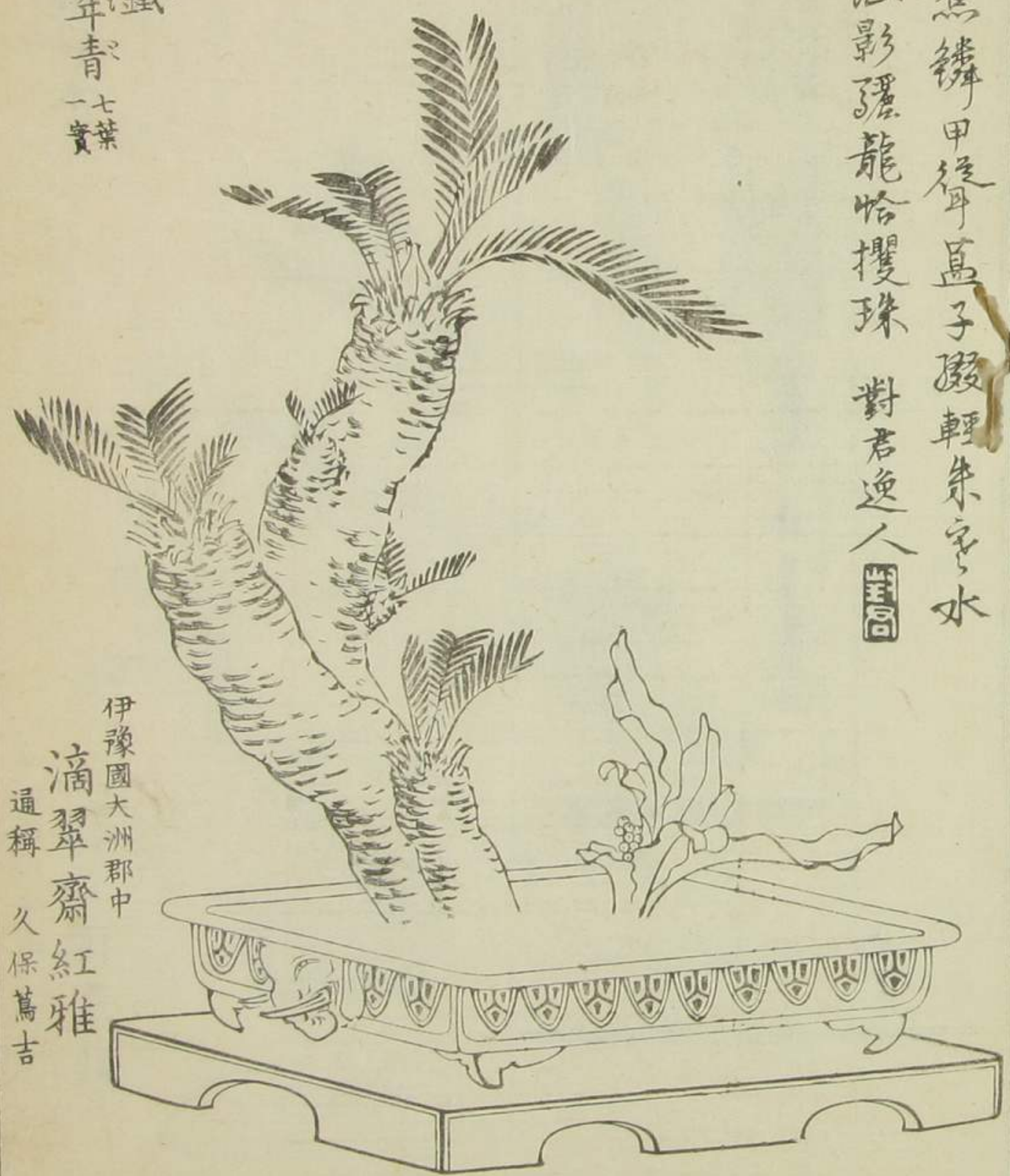
〇活花手引種後編卷之三



盆山 打春景

岩室 莽燕石
 通稱 上田勝三郎

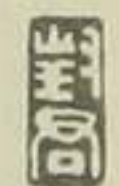
蕪鐵
萬年青
一七葉



伊豫國大洲郡中
滴翠齋紅雅
通稱 久保篤吉

○活花手引種後編卷之三

鐵蕉鱗甲後舟區子綴輕朱室水
倒涵影躍龍恰攫珠 對君逸人

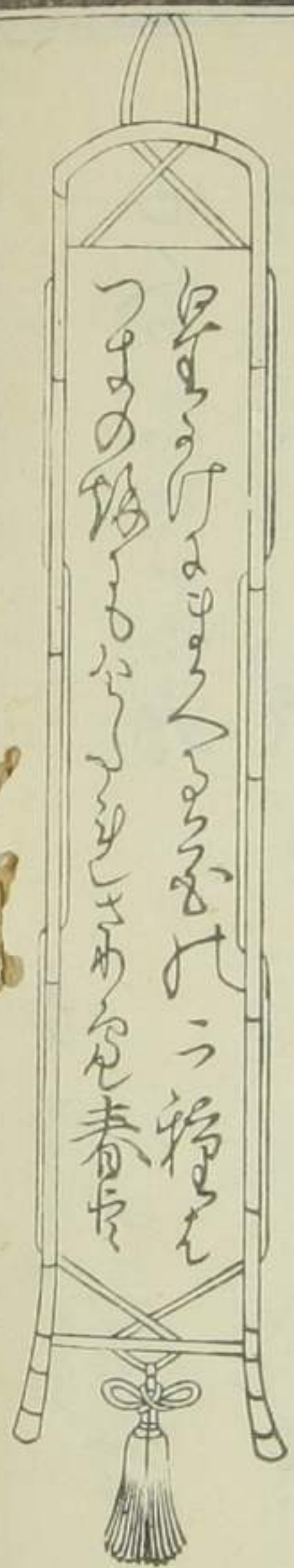


八胡梅
菊七稀

器山田無雙鉢



鳳松軒秀芝
通稱 橋永武兵衛



○活花手引種後編卷之三

人

人



活花手引種

活花手引種

○廿五
平安前却會頁
○廿六



子秋佳節
 插名花
 天頌如
 御袍黃
 梭隱島款

綵拍
 菊
 神
 器龍文堂鑄

御家御花務
 壽菜園水谷有雅

中島素章寫





百峰



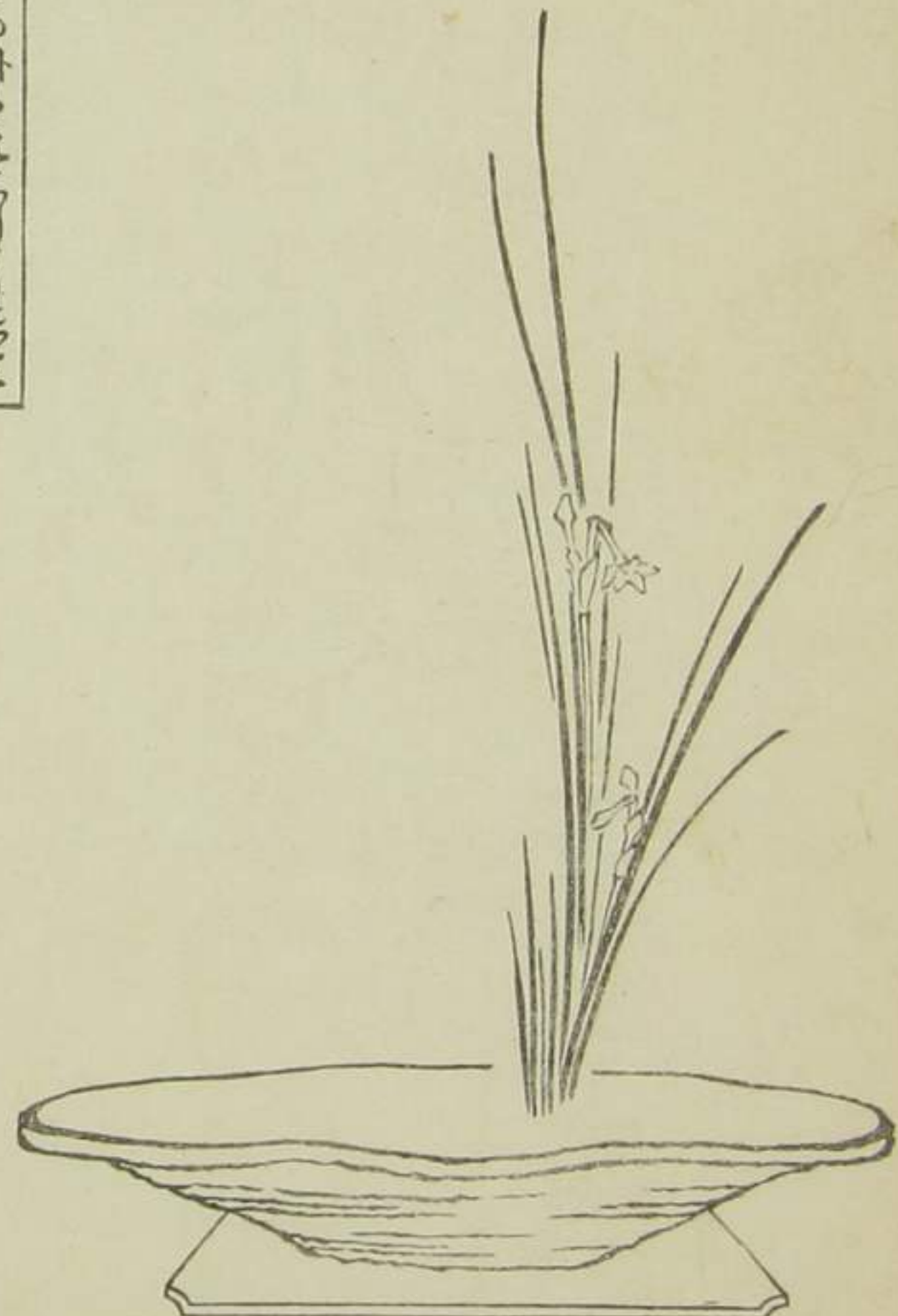
芳紅裁心成餅，枯生
 如步滿丹馨，歲多摩
 芳覓無霜凍，高由瓦
 插花經 壬子嘉平月
 水五玉人 示揮花譜索詩因題



Wadani hok no Emizi jolukito sakoe
 Hanana koto kajin adit
 Koetinajini fite
 gedicht
 von
 Gersonlath

譯文
 此乃外邦之草也其葉如
 竹葉而花如蘭花也其香
 如蘭花之香也其色如
 蘭花之色也其性如
 蘭花之性也其名曰
 薔薇園

旭去齋六雅
 通稱 小谷助陸



長壽花

竹家乃真珠賞

竹家乃真珠賞 形よ青陽を奏ら舞ケルよりハ活イキ

心ノ息々キク

御家 あり青山のありてハアラアラ

山と孫ありて意固く四方を固細カク

河流を汲養茶園其も此乃の名

サキ 葉にありて

根芽てんとかくる

青山乃壽の素意操も百子の空

言靈舎保之志

